



4.17撮影

雪崩・地すべり 研究センターたより

年3回発行・第77号
2017. 7月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・今年の融雪地すべりと雪崩の発生状況 ・トピックス ・平成29年度の研究課題 ・転入者あいさつ
・平成29年度メンバー ・ニュートンのリンゴの木

今年の融雪地すべりと雪崩の発生状況

1. 新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

図1には、新潟県と長野県における過去10年間の1～4月の融雪地すべり発生件数を示しました。H29年の1～4月の地すべり発生件数の合計は新潟県12件、長野県1件であり、過去10年間では新潟県が4番目に多く、長野県がH28の0件に次ぐ少ないものでした。月別では、新潟県が4月の10件が最も多く、長野県は1月に1件の発生がありました。なお、長野県では、5月23日に飯山市照岡大どう地先において、融雪地すべりが発生しています（トピックス参照）。

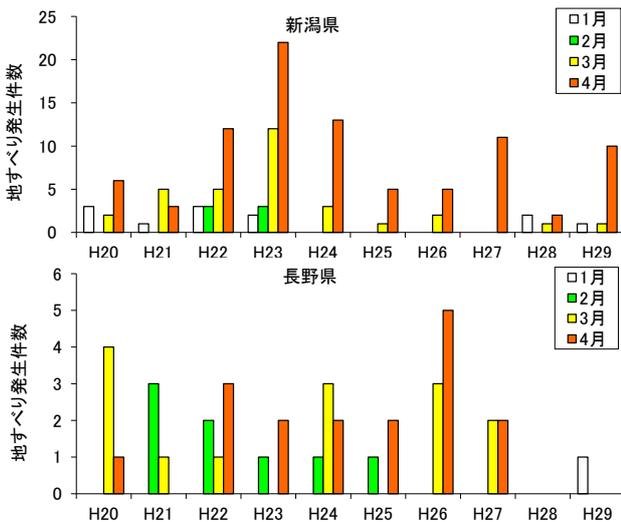


図1 1～4月の融雪地すべり発生件数の推移
(新潟県、長野県砂防課調べ)

2. 今年の雪崩の発生状況

2016-17年冬期は、日本付近の寒気の南下が弱く、気温の高い日が多かったため、全国的に暖冬となりました。一時的に強い寒気が南下したことがあり、特に1月中旬～下旬前半と2月上旬後半～中旬前半には大雪となりました。3月以降、低気圧の通過後に一時的に北からの寒気が入るなど、気温の高い時期と低い時期があって全国的に気温の変動が大きい状態となりました。人的被害のあった雪崩災害は、11月下旬から5月上旬までの間に発生しました。特に、8名の尊い命が奪われた3月27日那須町の雪崩災害では、南岸低気圧通過に伴う大雪に起因するものと考えられます（表1）。

表1 2016-17年冬期の雪崩による人的被害

(新聞記事等から人的被害のあったものを整理)

発生日	発生場所	被災者	被災状況
11月29日	富山県立山室堂	登山者	1名死亡
12月21日	秋田県東成瀬村	住民	1名死亡
1月2日	長野県白馬八方尾根	山スキーヤー	1名重体
2月13日	長野県戸狩温泉スキー場	パトロール隊員	1名死亡
2月25日	北海道ニセコ	山スキーヤー	1名死亡、1名負傷
3月22日	群馬県片品村 前武尊岳	山スキーヤー	1名死亡
3月27日	栃木県那須町スキー場上	登山者	8名死亡 40名負傷
3月27日	福島県 安達太良山	登山者	1名死亡
4月28日	長野県白馬大雪渓	登山者	1名死亡
4月30日	富山県劔岳	登山者	1名死亡
5月4日	長野県北穂高岳	登山者	1名負傷
5月4日	長野県奥穂高岳	登山者	1名死亡

トピックス

■長野県飯山市の土砂災害

5月23日に、飯山市照岡大どう地先において、融雪による地すべりの発生（幅約150m、長さ約500m、土砂量60万m³）が原因で土石流が発生しました。



この土砂災害により、10世帯26名に避難勧告が出されました。このため、長野県の要請により、国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 萬徳深層崩壊対策研究官と当センターの金澤が、現地調査と今後の対応についての技術支援を行いました。

■砂防学会研究発表会

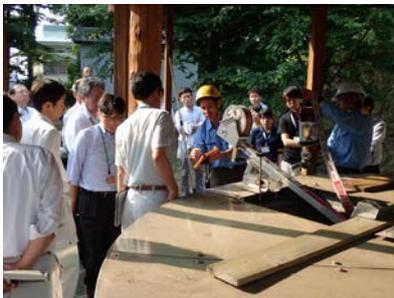
「平成29年度（公社）砂防学会研究発表会「奈良大会」」が、5月24～25日に奈良市において開催されました。当センターからは石田、金澤、丸山が参加し、地すべりに関する3課題についてポスター発表をしました。



課題名は、石田の「流動化した地すべり移動土塊の土質について」、金澤の「集水井内部の点検効率化に資する変状把握手法の検討」、丸山の「地すべり滑動時のすべり面における応力状態」です。写真は、会場及びポスター発表のようすです。

■砂防研究会 in 板倉

第25回「砂防研究会 in 板倉」が、6月23日に新潟県上越市板倉区の地すべり資料館において開催されました。当センターからは、丸山が「雪崩・地すべり研究センターにおける地すべり研究について」と題して、1970年代～現在までの研究成果について紹介しました。また、講演後、地すべり資料館の近くに設置されている集水井において、当センターが開発中の「集水井内観察カメラ」のデモを行いました。



■合同研究発表会

7月10日に、新潟県妙高市において「平成29年度妙高地区治水砂防協会並びに雪崩・地すべり研究推進協議会合同研究発表会」が開催されました。当センターからは、原田が「雪崩対策に関する土木研究所の取り組み」を、金澤が「地すべり対策に関する土木研究所の取り組み」を、それぞれ発表しました。



■雪崩・地すべり研究センター構内の桜

当センターの構内には、30本の桜の木が植えられています。これらの桜の木は、樹齢50年を超えるものです。写真は、4月14日のほぼ満開となった桜のようすです。昨年の満開の日は4月6日頃でしたので、今年の満開の日は約8日遅れになります。今年の当センターにおける最大積雪深は1月25日の107cmであり、平年より小雪でした。満開の日が遅れたのは、気温の低い日が続いたためと思われます。



平成29年度の研究課題

雪崩部門

- ①短時間の多量降雪による雪崩危険度評価に関する研究 (主要研究 H28～31)
- ②雪崩の規模の推定手法に関する研究 (基盤研究 H27～30)
- ③雪崩対策施設の健全性指標に関する研究 (基盤研究 H28～31)

地すべり部門

- ①地下水排除工の効率的な点検手法及び定量的な健全度評価に関する研究 (重点研究 H27～30)
- ②地すべり地における地下水流動調査の高度化に関する研究 (基盤研究 H27～30)

転入者あいさつ

■主任研究員 原田裕介

4月に札幌の寒地土木研究所より転入した原田と申します。前任地では、主に道路の雪崩および吹雪対策研究に従事してきました。これまでと同様に「現場での実践と科学的な理論の調和のとれた研究」を目標に、ここ妙高で砂防関連の雪崩対策研究に取り組む所存です。皆様にはお世話になりますが、何卒よろしく願いいたします。



平成29年度メンバー

上席研究員 石田孝司
主任研究員 原田裕介
研究員 金澤 瑛
特任研究員 丸山清輝
非常勤職員 石川 茂
非常勤職員 富里加代子
非常勤職員 飯塚真理子
非常勤職員 山本多加子
運 転 手 牧田孝一



ニュートンのリンゴの木

写真は、7月10日のりんごの木の状態です。昨年、骨格剪定などを行ったこともあり、花は咲きませんでした。樹の勢いを良くし、来年の春に花が咲くことを期待しています。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますのでご覧下さい。

発行：国立研究開発法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>
掲載内容は、現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により、内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。

